

6/1

「困っている人のために」 あんずの会がボトルキャップ寄付

ボランティア団体の「あんずの会」が、ペットボトルキャップ約30キログラムを洞爺湖町社会福祉協議会に寄付しました。あんずの会は、ペットボトルキャップの回収のほか清掃などの社会貢献を続けています。今回寄付したキャップは、日ごろの活動や知人からの協力を得て1年以上かけて集めました。

七戸好江会長は「少しでも困っている人の役に立てばうれしいです」と話していました。



ペットボトルキャップを寄付したあんずの会

5/29

中学生が慈善活動 虻田中がボトルキャップ寄付

虻田中学校（鈴木恭朗校長）の生徒会が、洞爺湖町社会福祉協議会にペットボトルキャップ約30キログラムを寄付しました。

校内に回収用の箱を設置し、生徒会の呼びかけで約1年半をかけて集めました。

生徒会長の杉村愛莉さん（3年）は「誰かに助けてもらった分、困っている人に恩返ししたいです」と話していました。



ペットボトルキャップを寄付した虻田中生徒会

6/6

洞爺湖温泉の観光客のために汗 虻田高が清掃ボランティア

虻田高校（千葉佳貴校長）の1年生20人が洞爺湖温泉にある足湯の清掃を行いました。地元の基幹産業である観光の活性化や地域貢献のため例年行われています。

当日は、洞龍の湯、薬師の湯の2班に分かれ、デッキブラシやたわしで浴槽を磨きました。座席やてすりを雑巾で拭いたりして汚れを落とし、洞爺湖温泉を訪れる観光客のために汗を流していました。



清掃に励む生徒

6/5

より良い社会のために 少年の主張大会開催

日常生活や社会に対して感じた疑問などをテーマにしたスピーチを発表する「少年の主張大会」が行われました。町内の中学生6人が参加。最優秀賞に選ばれた傳陽菜乃さん（洞爺中）は、クラス内でけんかがあっても言いたいことが言えなかった経験から「自分の思いを伝えられる信頼に満ちた世界をつくりましょう」と訴えました。

個性や親子愛についての発表もあり、参加した生徒は堂々と自分の考えを伝えていました。



熱のこもったスピーチを披露する傳さん

6/7

洞爺地区で買い物支援と見守り活動を推進 町とセブンイレブンが協定締結

町とセブンイレブン洞爺湖温泉店（山戸準也オーナー）が買い物支援・地域見守り活動に係る協定を締結しました。協定締結により、移動販売車が週3回洞爺地区を訪れ、食品などを販売します。移動販売車での買い物支援中に見回りをを行い、地域に異変がないかチェックします。

山戸オーナーは「少しでも豊かな暮らしのサポートをしたいです」と意気込んでいます。



協定を結んだ山戸オーナー(左)と下道町長(右)

6/6

火山防災に理解深める 虻田中・洞爺中合同防災教室

虻田中学校・洞爺中学校合同の避難所開設体験学習が行われました。生徒約40人が参加し、カードゲームで避難所運営を疑似体験する「D○はぐ」を実施しました。

生徒は、町の防災担当が「ペット連れの人が避難」「物資が届いた」などのカードを読み上げると、避難所での対応を相談しました。段ボールベッドの組み立てや洞爺湖有珠山火山マイスターの講話もあり、火山防災の幅広い知識を身に付けました。



D○はぐで避難所運営を学ぶ生徒

6/13

洞爺湖町の魅力を語り合う 洞爺湖町ファンミーティング

全国から洞爺湖町を応援するふるさと応援団員が、町の魅力を語り合うファンミーティングが行われました。

東京、札幌のふるさと応援団員と、町の担当者がオンラインで交流しました。参加者はいずれも町内出身で、湖や温泉など故郷の魅力を語り合いました。また、団員限定グッズ制作にあたり、帽子や文房具など「普段から気軽に身に着けられるものがほしい」とアイデアが上がっていました。



パソコン越しに町について語り合ったファンミーティング

6/9

採れたて野菜を販売 えんプロ市開催

町内の若手農業者が野菜の移動販売を行う「えんプロ市」が行われました。

地元野菜の魅力を広めようとして行われており、この日はあぶたふれ合いセンターで開かれました。トラックには採れたてのイチゴや越冬キャベツ、トマト、ジャガイモなどが並び、あいにくの雨にも関わらず、訪れた町民で会場はにぎわっていました。8、10月にも同センターのほか虻田郷土資料館で行われる予定です。



新鮮な野菜を移動販売したえんプロ市